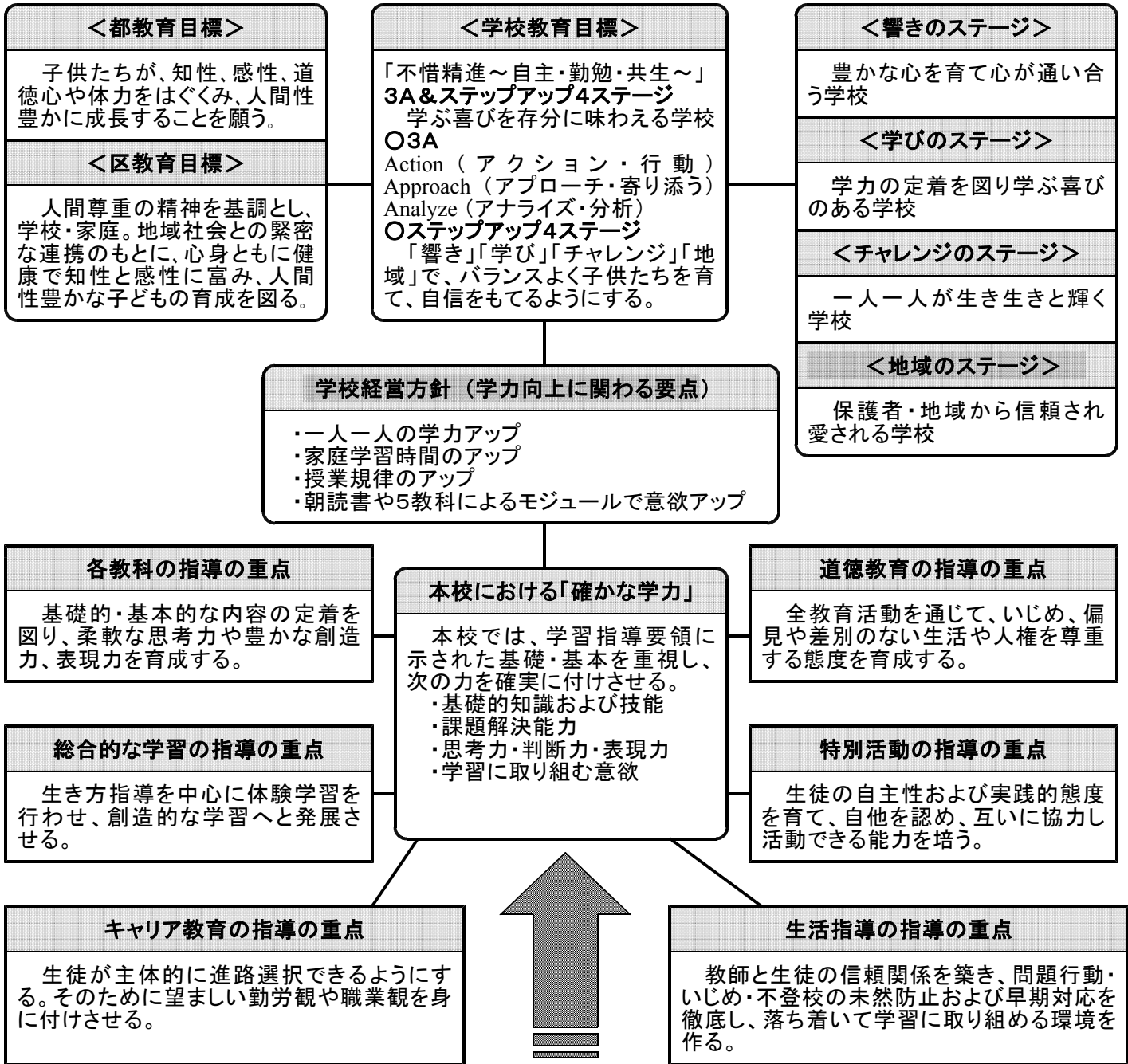


学力向上を図るための全体計画



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容と指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	評価活動の工夫	校内における研究や研修の工夫	小中一貫教育の取組と授業への工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
興味・関心をもたせるため、電子黒板・コンピュータ・eライブラリーなどICTを活用する。 支援員やTT教員を活用し、授業に対する意欲を高める。	定期考査前の補充教室や、長期休業中の補充教室を活用し、学びの継続性を重視した編成を行う。 定期考査を学習の意識付に活用し、年3回9教科で実施する。	コンピュータによる成績の一元管理を行い、評価の精度の向上を図る。保護者・学校評議員による教育活動の外部評価を取り入れ、改善を行う。	小中一貫教育で2教科の連携と授業研究を行い、授業力向上を図る。 独自の学力調査を毎年実施し、指導法の改善、生徒の学習法の改善にいかす。	中学校区別協議会を年2回行い、授業参観と小中一貫教育についての教職員の共通理解を図る。 実践校として研究授業を小中で行い、児童・生徒の指導内容と指導法を授業で共有する。	家庭学習の時間を、1年1時間、2年2時間、3年3時間を目指し、計画的に課題を出す。また家庭学習支援システムeライブラリーを活用する。 学習の取組についての三者面談を実施する。